

株主・投資家の皆さまへ
第61期 期末報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

「食べることは、
すべての人をうれしくできる。」

お子さまも、お年寄りも、学生も、

ビジネスマンも、お母さんも。

「食べることは、誰もを幸せにすることができません。

そんな素晴らしい毎日の出来事を、

私たちフクシマは、

温度技術でもっと豊かなものにできないかと考えています。

「美味しい」を「もっと美味しく」する温度は何だろう。

「新鮮」を「もっと新鮮」にする温度は何だろう。

「安心」を「もっと安心」にする温度は何だろう。

「うれしい」を「もっとうれしい」にする温度は何だろう。

フクシマがこだわる温度は、ただの数字ではありません。

誰かをしあわせにする温度です。

守る温度、育む温度、思いやる温度。

微妙な温度の中にたくさんの気持ちを含めています。

スーパーマーケットや百貨店のショーケース、

厨房の冷凍冷蔵庫や冷却調理システムをつくり続けて60年。

これからも、しあわせの温度をお届けすると決意して、

新しい一歩を踏み出します。

しあわせの温度をつくる。福島工業

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社第61期の事業活動の概況をご報告申し上げます。株主の皆様には、引き続きご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

当社は、平成23年12月8日をもって創立60周年を迎えました。これもひとえに長年当社を支えてくださった多くのお客様をはじめ、お取引様や株主の皆様のご支援の賜物と厚く感謝申し上げます。

企業理念

環境・安全・安心をテーマに「幸せ創造企業」を目指します。

第1項

生活者の幸せ

わたしたちは、環境・安全・安心をテーマに、お客様と協働し、生活者の「幸せ」に寄与することを基本使命とします。

第2項

お客様の幸せ

わたしたちは、独自の技術とシステムにより、フードビジネスに新しい価値を創造し、お客様の「幸せ」に貢献することを基本使命とします。

第3項

社員の幸せ

わたしたちは、自己責任能力を高め、自身と社業の成長を通じて、物心両面の「幸せ」を追求することを基本使命とします。

第4項

株主・お取引先の幸せ

わたしたちは、将来への目標を共有し、常に業績向上に努め株主やお取引先に「幸せ」を提供することを基本使命とします。

省エネを追求する独自技術で「三方善し」実現へ

ショーケース販売が売上をけん引

東日本大震災の影響による経済活動の停滞により、4月から5月にかけて売上は伸び悩みました。特に外食産業では、震災後の消費者の節約志向による売上の低迷や先行きの不透明感から、汎用業務用冷蔵庫をはじめとした冷凍冷蔵庫販売の上期の売上は落ち込みました。しかし、復旧の進行とともに徐々に回復の兆しが見られ、夏季以降は店舗の改装や新規出店が徐々に増加したことなどから、冷凍冷蔵庫販売の売上は増加しました。

一方、流通産業では、消費者の内食志向の高まりや個人消費に持ち直しの兆しが見られたことから、企業の設備投資意欲が強まり、コンビニや食品スーパーの新規出店や改装が増加しました。また、都市部での買い物の利便性を高める50坪程度の小型食品スーパーの出店が増加したことから、冷凍

冷蔵ショーケース販売の売上は好調に推移しました。

その結果、連結で売上高、経常利益ともに過去最高の数字を達成しました。

省エネを実現するナンバーワン技術力で社会・お客様に貢献

当社は、長年培ってきた温度コントロール技術を生かし、数々の省エネ製品やシステムを開発してまいりました。今後も厳しい電力供給状況が続く中、省エネを追求し技術力を高めてまいります。昨年度は、業界トップ

クラスの省エネショーケース「Send-you」シリーズと店舗全体の電力を制御する省エネ制御システムを活用した“ESCO事業”を展開し、削減した電気代で省エネ設備への投資が行え、CO₂も電気代も減らして社会の役に立てることから多くのお客様にご支持いただきました。

今後の取り組みとして、店舗全体のエネルギー管理を行うトータル・エネルギー・マネジメント・システムを店舗や厨房に導入し、店舗全ての電力を当社のコントローラーで「見える化」し、電力使用量の削減に取り組んでまい

ります。

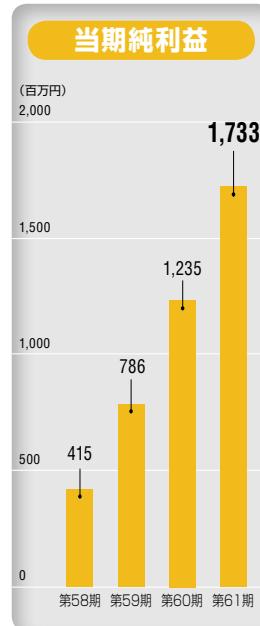
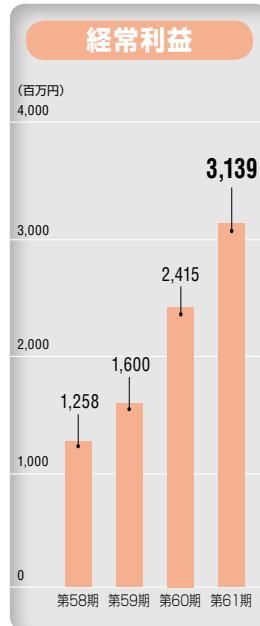
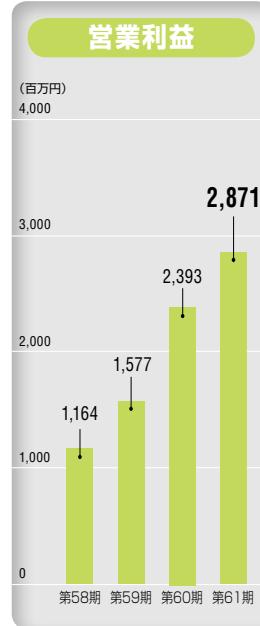
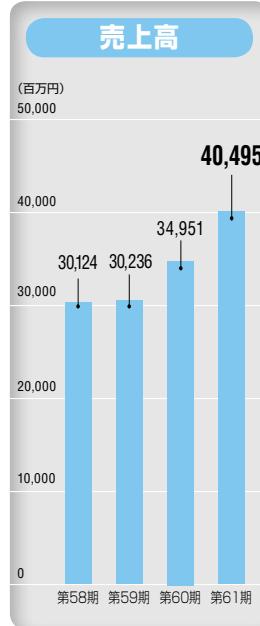
さらに、当社のナンバーワン技術力を発展させ、お客様には良いお店を作って消費者に喜んでいただき、さらなる省エネで環境負荷を軽減し、社会にお役立ちできる『三方善し』が実現できるようこれからも日々邁進してまいります。

感謝の碑

60周年を記念して、今までの歴史を支えてくださった皆様への感謝と将来の100周年へ向けての思いを込めて、滋賀工場に「感謝の碑」を建立いたしました。碑は、企業理念である幸せ四則『生活者の幸せ、お客様の幸せ、社員の幸せ、株主・お取引先の幸せ』に、新しい芽生えをイメージしたリングで無限の可能性を表しています。



代表取締役社長 福島 裕



過去最高の売上、経常利益を達成

冷凍冷蔵庫販売では、震災後の消費者の節約志向による外食売上の低迷などを受け、汎用業務用冷蔵庫の売上は厳しいスタートとなりましたが、夏季以降は店舗の改装や新規出店が徐々に増加し、前年比微増となりました。また、老健施設や宅配給食、病院給食など外食以外の顧客が増加し、食材や調理機材の殺菌・洗浄を行うFEクリーン水機器や医療機器の売上が伸びました。さらに、食品工場向けにトンネルフリーザーの売上が好調であったことなどから、冷凍冷蔵庫販売の売上高は、前年同期比8.4%増となりました。

冷凍冷蔵ショーケース販売では、消費者の内食志向の高まりからスーパーやコンビニの業績が伸び、流通各社の改装や新規出店に対する投資が増加したことが販売増に貢献しました。また省エネショーケースと店舗全体の電力を制御する省エネ制御システムを活用した“ESCO事業”が多くのユーザーに支持され、食品スーパーへの導入店舗が堅調に増加し、冷凍冷蔵ショーケース販売の売上高は、前年同期比31.1%増となりました。

サービス販売では、製品寿命を延ばし、効率的な運転を維持するサービスメニューの提案や、保守契約店舗での冷凍機入替需要の増加や空調を含めた厨房内の機器のメンテナンス、ESCO事業による保守メンテナンスの増加などから、売上高は前年比7.7%増となりました。

設備工事では、食品スーパーの改装や新規出店が増加しショーケース関連の設備工事が増大したことから、設備工事の売上高は、前年同期比17.2%増となりました。

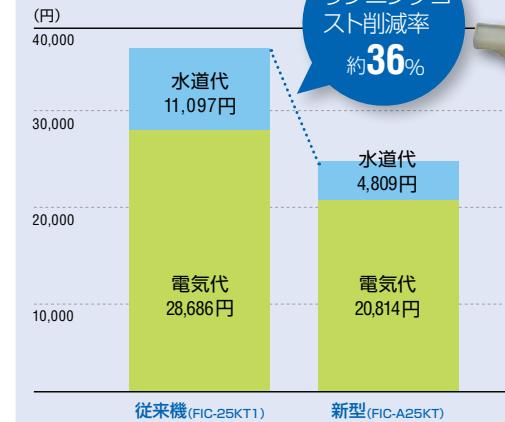
製造部門では、横型冷蔵庫モデルチェンジへの投資により減価償却費が増加したものの、ライン改造による生産性の向上、部品の共通化や原材料の見直しによるコスト低減、設備工事での原価低減に取り組み、当連結会計年度の売上高は404億9千5百万円（前年同期比15.9%増）、営業利益は28億7千1百万円（前年同期比20.0%増）、経常利益は31億3千9百万円（前年同期比30.0%増）、当期純利益は17億3千3百万円（前年同期比40.3%増）となりました。

TOPICS 01 フルモデルチェンジ

使いやすさを追求した小型製氷機でさらなる省エネを実現

小型製氷機 FIC-A シリーズ

年間ランニングコスト比較



※1:周囲温度20℃/水温15℃/50Hz地区の場合
 ※2:1日18kgの氷を使用する場合
 ※3:料金:電気22円/kWh(単相100V)、上下水道:366円/㎡
 ※4:使用条件により変動します



FIC-A25KT

福島工業では、今後も省エネで使いやすく、高付加価値を実現できる製品を開発してまいります。

5つのリニューアルポイント

- 1 汚れがつきにくい クリアコーティング加工を採用**
外装前パネル・扉・機械室パネルにクリアコーティング加工材を使用しました。
- 2 開けやすい扉ハンドル**
扉ハンドルの形状を変更し、手をかけやすくしています。扉上部からのほこり、水滴の庫内への侵入を防ぎます。
- 3 防虫・防臭効果の排水トラップを採用**
虫の侵入や臭いを防ぐ、専用の排水トラップを採用しました。
- 4 排熱性向上**
製品の背面にへこんだスペースを設け、前面に補助排気口を追加。背面を壁に設置することができます。
- 5 接地形2極用プラグで安全性向上**
感電防止など安全性向上のために、接地形2極用プラグ標準装備に変更しました。

TOPICS 02 展示会出展

最新の省エネ製品を積極的にPR

今期も当社は、『スーパーマーケット・トレードショー』および『厨房設備機器展』に出展しました。『スーパーマーケット・トレードショー』では、魅せる売り場づくりが可能な新型ショーケースやクリスタル照明棚板、省エネ・節電に最適な「Send-you」シリーズ「空調最適制御」の組み合わせによるトータ

ルエネルギーマネジメントシステムをご提案。『厨房設備機器展』ではモデルチェンジした冷凍冷蔵庫や製氷機、低温スチーマーや再加熱カートなど高付加価値品のPR、そして恒例の冷却調理実演で食の安全・安心を支える当社製品をご提案しました。大勢のお客様に当社技術力をPRする場となりました。

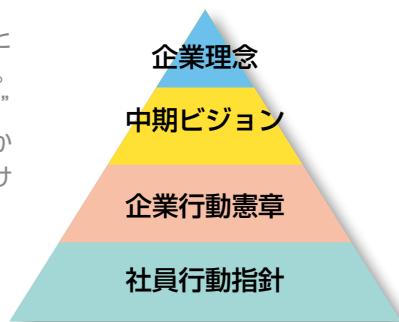


◀『スーパーマーケット・トレードショー 2012』

▶『厨房設備機器展 2012』

『企業行動憲章』と『社員行動指針』を制定

創立60周年を記念し、企業理念である「幸せ四則」を実践する為の基本姿勢を示すものとして、新たにフクシマグループの『企業行動憲章』と『社員行動指針』を制定いたしました。『企業行動憲章』と『社員行動指針』に従い行動し、企業理念にもあります“生活者の幸せ”の実現に少しでも貢献できるよう、そして次なる100周年へ向けて、「モノ作り」原点からNo.1技術力を駆使する「コト作り企業グループ」へと世界へ飛翔する夢の実現に向けて邁進してまいります。



企業行動憲章 企業としてフクシマが果たすべき責任は？

食の安全・安心

私たちは食の安全・安心を何よりも優先し、食生活の品質向上に寄与し、健康的で豊かな「食」のインフラを支え続けます。

お客さま満足の追求

私たちは「お客さま第一」を念頭に、独自の技術開発にチャレンジし、お客さまの信頼と満足を得る高品質な製品とサービスを提供します。

環境保護

私たちは地球環境にやさしい事業活動を経営課題の一つとして認識し、環境への影響を配慮した取り組みを継続的かつ積極的に推進します。

社会貢献

私たちは「食」を通じて生活者が幸せになることを目指して、本業及び本業以外の活動を通じて持続可能な社会への貢献を果たしていきます。

法令遵守

国内外の関係法令、国際ルールを遵守することはもとより、福島工業の企業倫理に沿った透明で公正な企業活動を行います。

グローバル

私たちは地球的な視点から柔軟に発想し、世界市場での成長と拡大を目指すとともに、日本の優れた食文化や食の品質を保つシステムの現地化を推進します。

公平・公正な取引

私たちはお客さま及び取引先さまと対等のパートナーとして、すべてのプロセスにおいてフェアな取引を徹底します。

従業員の尊重

私たちは社員の豊かな生活の保持に努力するとともに、社員の多様性と個性を認め、挑戦と革新のマインドを醸成する職場環境の形成と人材教育に積極的に取り組みます。

情報開示

私たちは社会に開かれた企業として、株主・投資家はもとより、広く社会に対し企業情報の適時・適正な開示に努めます。

情報管理

私たちは当社及び他社の機密情報や、お客さま・社員の個人情報厳正に管理し、これを第三者に漏洩せず、また会社の業務以外の目的に使用しません。

反社会的勢力への姿勢

私たちは、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力・団体との関係は一切持ちません。

社員行動指針 私たちは何を大切にし、どう行動するのか？



いつでもどこでも 食の安全・安心を

私たちは「食」に関わるビジネスに携わるものとして、安全・安心な食の提供を何よりも優先し、すべての人の豊かな食生活の実現に貢献していく。これまで培ってきた「安全・安心技術」を、日本はもとより世界へ広くお届けしていく。「食」を通じて社会を明るく元気にすることが私たちの使命である。(食の安全・安心)



お客さまに どっぷり浸かる

私たちは机上ではなく、必ずお客様の現場に向かい、自分の目で確かめ、肌で感じ、生活者にとってのベストな答えを追求していく。何よりスピードを重視し、すぐ動き、動きながら考える。困難にぶつかっても簡単にあきらめない。どうすればできるかを誠意と熱意を持ってお客様と一緒に考えて必ず実現する。(顧客志向・顧客重視)

チームFukushimaで 限界に挑戦

一人のできる仕事には限界がある。社内の様々な部門のプロフェッショナルが集まり、お互いに刺激・触発しながら、どんな困難にも「チャレンジする勇気」で立ち向かっていく。強い個人が集まった「チームFukushima」でとことんやりぬき、限界突破を図っていく。(チームワーク)



未来に向かって 大胆に挑戦

社会や顧客は常に化する。よりよいモノづくりのためには、現状に満足することなく、常に「一歩先」「一歩上」を目指す強い気持ちが必要になる。変化を先取りし、知恵と工夫で、まだ世界のどこにもない時代の先駆けとなる新しい価値を創造していく。(独創性・先見性)



人を育てて、自分も磨く

社員が最も大切な資産であり、社員の成長が会社の成長に直結する。これからの時代は、社員にはゼロから新たな方向性を切り拓くことが求められる。私たちは自ら学び、向上しようとする社員を積極的に育成・評価・登用する。仕事を通じ、教え学び合うことでお互いに成長していく。自己実現を達成できるような職場環境をみんなで創り出す。(教育)



当たり前を、当たり前

約束を守らない人からは、何も生まれない。日頃から整理・整頓・清潔を心がけ、社内規則及び各種法令を遵守し、社会人として良識ある行動をとる。誠実かつ公正に行動できることが、福島工業グループ社員に求められる最も基本的な要件である。(ルール遵守)

2011年8月、新潟県長岡市に日産6000食を誇るセントラルキッチンがオープンしました。10年越しの思いで実現した同施設は、当社最新機器と「現場の力」に支えられています。

納入先

医療・福祉の里 美味滋養工房様



クックチルを支える当社のプラスチックラバー



温度管理システム「HACCPマスター-V3」

概要



〒940-2116
新潟県長岡市南七日町2-6
●法人名：(株)マイステルジャパン
●TEL：0258-47-5179
●生産能力：6000食/日
●建物面積：約1400m²
●厨房面積：約900m²

お客様の声

工場で従業員に会い、「安心して任せられる」と実感

(株)マイステルジャパン
専務取締役
五十嵐 芳人氏



私は「人間力」を信じています。福島工業さんの工場を見学したとき、従業員の皆さんがしっかり挨拶されていて感心しました。挨拶は基本。私の人材観と同じものを感じ、「この方たちが作るなら安心できる」と思いました。現在、500床の病院食の提供を目指しています。セントラルとサテライトの連携強化が必要な難しい仕事ですが、課題が多い分、実現すれば注目度も高まるはずです。我々の業界は日進月歩。福島工業さんにはこれからも、私たちをサポートしてくれる製品を提供してもらいたいです。

す。おいしい食事を提供したい一心で、「副菜はセントラル、ご飯やみそ汁はサテライトで調理して温かいまま出すスタイルにこだわりました」(五十嵐専務)。

機器に頼りすぎず、人の手で確認

大量の食事を安全かつ美味しく提供するために、トータル温度管理システム「HACCPマスター」を導入。さらに「ヴィンボック換気天井システム」も導入し、従業員の快適さを追求します。そして2011年、ついに長岡セントラルキッチンが完成。「美味滋養工房」の名前には、「自然のものを口からとり、おいしく感じることで病気は回復する」との意味が込められています。高度な設備を使う一方、手を使った温度管理など「人による安全管理」にこだわりを持つのがマイステル流です。

最新機器と人の手が叶える理想のセントラルキッチン

おいしさへのこだわりを“融合”で実現

「新設するセントラルキッチンの責任者になってほしい」。畑違いの業界にいた五十嵐芳人専務にそう打診があったのは2000年。引き受けることになったものの、事業化は難航していました。食事サービスコンサルタントの窪田伸・現ミールシステム社長と2人で立てた新計画でも融資は得られず、断念せざるを得ませんでした。

転機は2008年。窪田社長に誘われ、病院向けにクックチルを行う「ヘルスケアキッチンみたけ」(岩手県盛岡市)を見学したときでした。同施設はセントラルとサテライトを連携させた、まさに五十嵐専務の理想。というのも冷蔵した食事を温め直すセントラルだと、ご飯やみそ汁の味が落ちてしまいま

高品質食品スーパーの老舗として名高い「もとまちユニオン本店様」。創業の地で、当社ショーケースとともに新たな歴史を刻み始めています。

納入先

もとまちユニオン本店様



フルーツギフトはセミ多段1650H



B1 青果売場はコーナーショーケースを有効活用



鮮魚は平型ショーケースでセルフ販売



ワインのイベントコーナーではインバータ冷凍機内蔵ショーケースを使用

創業の地、横浜・元町で本店が生まれ変わる

「Send-you」シリーズを採用し、本店の売場が一新

ユニオネックス様は、横浜、横須賀、湘南などに「もとまちユニオン」「ヨコサン」「スパーク」の3つのブランドで食品スーパーを展開しています。中でも1958年、元町商店街にオープンし、「高品質食品スーパー」の老舗とも言われるのが「もとまちユニオン本店」。当時非常に珍しかった、海外輸入製品を中心に扱う外国人向けスーパーとして開店しました。

当時の日本人にはなじみの薄い外国食品を扱う同店は「横浜らしい高品質スーパー」として1960年代以降、全国的に有名になっていきました。

その創業の地であるもとまちユニオン本

店ではこのほど、「Send-you」シリーズを採用。新しく生まれ変わった姿で2011年8月5日、改装オープンを果たしました。

受け継がれる高品質スーパーの伝統

新しい店は3層階で構成されており、1階は加工食品やオリジナルデリ、ベーカリーショップ、フラワーコーナー、地下1階は伝統の対面販売を重視した市場感覚の生鮮食品、2階は菓子、ワイン&リカー、日用雑貨で構成。2階には直営のカフェも設けられています。50年以上の歴史ある本店で、当社ショーケース「Send-you」とともに高品質スーパーの伝統が受け継がれていきます。



オリジナルデリ惣菜は対面スタイルで

店舗概要



〒231-0861
神奈川県横浜市中区元町4-166
●法人名：ユニオネックス(株)
●TEL：045-641-8551
●営業時間：10:00～22:00
●売場面積：約832m²

連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日現在)	当連結会計年度 (平成24年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	23,187,683	25,469,410
固定資産	10,560,654	11,632,810
有形固定資産	7,353,893	7,016,959
無形固定資産	92,347	97,583
投資その他の資産	3,114,413	4,518,266
資産合計	33,748,337	37,102,221
負債の部		
流動負債	12,378,546	14,205,441
固定負債	1,809,850	1,529,308
負債合計	14,188,397	15,734,749
純資産の部		
株主資本	19,536,989	21,026,644
資本金	2,760,192	2,760,192
資本剰余金	2,886,073	2,886,073
利益剰余金	14,241,371	15,731,168
自己株式	△ 350,646	△ 350,789
その他の包括利益 累計額	△ 79,710	238,031
その他有価証券 評価差額金	145,384	480,138
為替換算 調整勘定	△ 225,094	△ 242,107
少数株主持分	102,660	102,795
純資産合計	19,559,940	21,367,471
負債純資産 合計	33,748,337	37,102,221

連結損益計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
売上高	34,951,574	40,495,466
売上原価	26,391,263	31,219,598
売上総利益	8,560,310	9,275,867
販売費及び 一般管理費	6,166,871	6,404,564
営業利益	2,393,439	2,871,302
営業外収益	203,307	314,180
営業外費用	181,243	45,695
経常利益	2,415,504	3,139,787
特別利益	0	11,912
特別損失	89,556	62,281
税金等調整前 当期純利益	2,325,937	3,089,417
法人税、住民税 及び事業税	1,185,643	1,330,498
法人税等調整額	△ 64,192	25,536
少数株主損失	△ 30,686	△ 71
当期純利益	1,235,171	1,733,453

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで)	当連結会計年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	3,193,800	1,879,441
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 11,711	△ 1,695,043
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,001,642	△ 355,115
現金及び 現金同等物に係る換算差額	△ 109,100	△ 21,388
現金及び 現金同等物の増減額	2,071,346	△ 192,105
現金及び 現金同等物の期首残高	9,345,135	11,416,482
現金及び 現金同等物の期末残高	11,416,482	11,224,376

記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

売上高

省エネショーケースと空調・照明を含めた店舗全体の省エネ制御システムの売上増や、食品工場向けのトンネルフリーザーの売上拡大等により、売上高は404億9千5百万円(前年同期比15.9%増)となりました。

経常利益

冷凍冷蔵ショーケースの売上増や、製造・工事部門をはじめとした全社での更なるコスト削減、連結子会社の利益の増加により、経常利益は31億3千9百万円(前年同期比30.0%増)となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における資金は、税金等調整前純利益を30億8千9百万円計上し、主に投資活動に資金を使用した結果、前連結会計年度末に比べ1億9千2百万円減少し、112億2千4百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は、18億7千9百万円(前年同期比13億1千4百万円減)となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は、16億9千5百万円(前年同期比16億8千3百万円増)となりました。これは主に定期預金の預入による支出及び設備投資として各工場の生産設備等有形固定資産の取得を行ったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は、3億5千5百万円(前年同期比6億4千6百万円減)となりました。これは主に借入金の返済及び配当金の支払によるものです。

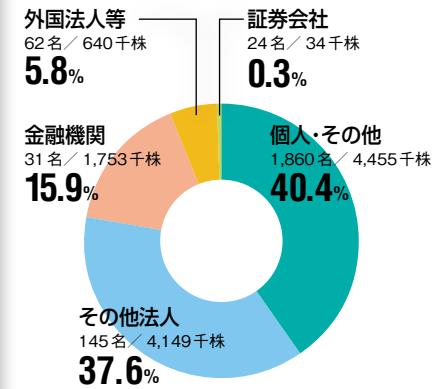
株式数及び株主数

発行可能株式総数…………… 31,842,500株

発行済株式の総数…………… 11,033,080株
(自己株式439,497株を含む)

株主数…………… 2,122名

所有者別株式分布状況



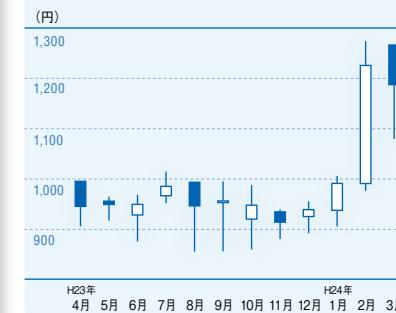
大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
福島機器販売株式会社	2,790	25.3%
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	951	8.6%
福島工業社員持株会	945	8.6%
福島 裕	532	4.8%
福島 亮	332	3.0%
有限会社 ティー・シー・エス・ピー	275	2.5%
ザバンクオブ ニューヨーク ノントリーティ ジャスデック アカウント	195	1.8%
日本生命保険相互会社	186	1.7%
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	150	1.4%
シージーエムエル アイピービーカスタマー コラテラルアカウント	126	1.1%

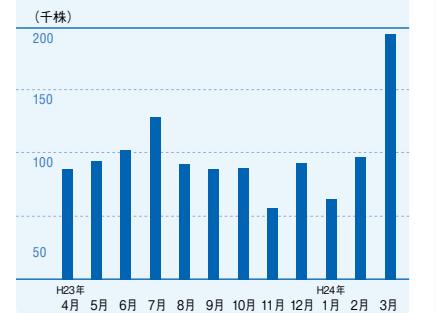
(注)千株以下は切り捨てて表示。また、上記のほか当社所有の自己株式439千株があります。

株価チャート

株価の推移



出来高の推移





<http://www.fukushima.co.jp>

会社の概要

商号	福島工業株式会社
本社設立	〒555-0012 大阪府大阪市西淀川区御幣島3-16-11 昭和26年12月8日
資本金	27億6千万円
従業員数	連結:1,123名 単体:903名(準社員除く)
ネットワーク	支社 東日本(東京)、中部(名古屋)、関西(大阪)、西日本(福岡) 支店 札幌、東北(仙台)、信越(新潟)、関東(さいたま)、横浜、 千葉、西関東(立川)、北陸(金沢)、京都、阪和、神戸、岡山、 広島、四国(高松)、西九州(長崎)、南九州(熊本)、沖縄 営業所 旭川、青森、盛岡、秋田、郡山、山形、長野、松本、宇都宮、 高崎、水戸、小田原、相模原、甲府、静岡、沼津、浜松、豊橋、 三重、岐阜、高山、富山、福井、滋賀、北近畿、奈良、 和歌山、北大阪、難波、南大阪、姫路、鳥取、松江、福山、山口、 徳島、松山、高知、北九州、久留米、大分、佐賀、佐世保、宮崎、 鹿児島、石垣 工場 滋賀、岡山 グループ会社 国内 高橋工業株式会社、フクシマトレーディング株式会社 海外 香港、台湾、シンガポール、韓国、上海、北京合弁工場
役員	代表取締役社長 福島 裕 専務取締役 福島 亮 常務取締役 片山 充 取締役 長尾健二 取締役 水谷浩三 監査役 竹内博史 監査役 吉田広務 監査役 手川明映

株式のご案内

決算日	3月31日
定時株主総会	毎年6月下旬に開催
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の確定日は9月30日
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 市場第一部
公告掲載方法	当社の公告はホームページ http://www.fukushima.co.jp/ir/advertise.html に掲載いたします。

株式事務取扱所

●株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

●株主名簿管理人事務取扱場所

大阪市中央区北浜四丁目5番33号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

【郵便物送付先】 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

【電話照会先】 0120-176-417

【インターネットホームページURL】 <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>